

とよひら  
フォト  
アルバム

▶区役所の新年のお出迎え(1/4)  
こりんとめーたん、区長ら職員が区民の皆さまをお出迎え。



大空高く揚がったよ!

▶お正月、凧作り・凧揚げにチャレンジ(1/6)



どんな絵にしようかな?



◀わくわく保育・子育て体験(1/13)  
高校生のお姉さんと一緒に遊んで、子どもたちは大喜び!

▶げんき雪んこまつり(1/12)  
みんなで楽しく坂滑り!



▲平成22年豊平区成人式(1/11)  
今日から大人の仲間入りです。

とよひら  
今昔

第48回 札幌オリンピック真駒内距離競技場の巻

～西岡と羊ヶ丘の丘陵地で熱い戦い～

冬の大会の準備は、大雪や猛吹雪があれば、雪不足や暖気による融雪が起こることもあり、まさに自然との戦いです。コースは一月十二日に完成する予定

だったのです。冬の大会の準備は、大雪や猛吹雪もあれば、雪不足や暖気による融雪が起こることもあり、まさに自然との戦いです。コースは一月十二日に完成する予定

コースは、全長三十七キロメートル。現在の森林総合研究所近くを発着地点として、南東にある焼山を中心設置されました。クマザサの繁茂した樹林帯、水田、畑、山林などが広がる土地に造られ、西岡水源池の周辺もコースの一部でした。

四年に一度開催される冬の祭典、冬季オリンピック大会。その第十一回大会が、一九七二昭和四十七)年二月三日から十三日の十一日間、札幌市で行われました。市内には、実施される競技に合わせて、さまざまな施設が整えられ、その一つとして西岡から羊ヶ丘の丘陵地にかけて「真駒内距離競技場」が造られました。

また、西岡水源池の周りは整備され、一九七七(昭和五十二年)に西岡公園となりました。冬期間には、歩くスキーなどを楽しむ人の姿も見られます。

札幌国際スキー大会の様子

発着地点は、緩斜面を切り崩したり、土を盛ったりして、約三万六千平方メートルの平地が造成されました。二十数カ国の選手が一斉にスタートすることができ、運営本部や選手控室などの施設、収容能力約一万人の観客席を設置できる場所が必要だったのです。

大会は好天に恵まれ、二月四日から始まった距離競技は、連日、白熱したレースが繰り広げられました。熱戦が続くコースは、大会役員や自衛隊などにより、期間中、完璧な維持管理が行われ、参加した各国の選手から、大きな賞賛を受けました。大会後、発着地点に設けられた運営本部などの建物は、民間に払い下げられ、撤去されました。しかし、コースとなった丘陵地の一部は、今でも札幌国際スキー大会などで使用されており、多くの市民が雪原を駆け抜けています。



※今年の第30回記念札幌国際スキー大会は2月14日(日)に開催されます。